

第 6 5 回 東日本実業団対抗駅伝競走大会

【出場結果】

実施日 : 11月3日(日・祝) 8時スタート
コース : 埼玉県庁～深谷駅折り返し～熊谷スポーツ文化公園陸上競技場
総距離 : 7区間 76.9 km
成績 : 4時間2分32秒 21/40位

出場者・リザルト : 1区 11.6 km 小林 航央 23/42位 35'02"
2区 9.4 km 坪井 響己 25/42位 29'09"
3区 15.1 km 親崎 達朗 26/42位 48'30"
4区 9.5 km 小野 修平 26/42位 31'43"
5区 7.8 km 三浦 剛 21/42位 25'27"
6区 10.6 km 西沢 晃祐 22/42位 32'26"
7区 12.9 km 関口 大樹 21/42位 40'15"

※OP参加2チーム(混合チーム)は個人記録としては記録されるが、チーム順位は対象外

【レポート】

本大会は来年元旦に開催されるニューイヤー駅伝の予選会となり、今年1月に開催された本選の結果から各地区の出場枠が決定し、東日本地区は昨年度より2チーム減って僅か10チームと、近年では最も熾烈な出場権を懸けたレースとなりました。

また、クラブチームの出場が昨年度の大会よりも増えたこともあり、全42チーム(OP参加2チーム含む)が出走し、埼玉県庁出発～深谷駅折り返し～熊谷スポーツ文化公園陸上競技ゴールの全7区間、全長76.9kmでレースが行われました。

当日のレースコンディションは、朝から北風が強く吹き荒れ、深谷駅を折り返しスタートの6区以外は全ての区間で向かい風を受けることとなり、速さより強さが求められるコンディションの中で、ニューイヤー駅伝のプラチナチケット「10枠」をかけた熱いレースが展開されました。



1区の選手達が埼玉県庁前を一斉にスタート

例年 1 区を任せていた加藤が長期故障により不在の中、今年度の 1 区にはチーム 1 のスピードランナーである小林を起用しました。

9 月には 5000m で 13 分台をマークし、スローペースの展開になればラストのスパート力もあるため、上位での襷渡しも期待しておりましたが、GMO インターネットグループの選手が序盤から飛び出して、そのまま集団がばらけてしまったことで、小林は後方の集団でレースを進める苦しい展開となりました。

以後も最後まで必死に粘り切り、23 位（OP 参加含む）で 2 区の坪井に襷を繋いで先頭チームとの差は 2 分 20 秒差となりましたが、強化実業団チームの選手も前後におり、1 区としての役割は果たしてくれたと思います。



1 区 小林選手

2 区は外国人選手が起用出来るインターナショナル区間ですが、今年度から距離が 1.4km 延伸となり、これまで以上に外国人選手の存在が順位変動に影響を与えることになりました。

当社は 2 区に坪井を起用しましたが、1 ヶ月前のレースで転倒に巻き込まれ、脚の打撲と肘を骨折するアクシデントに見舞われ、一時は出場すら厳しい状況の中、駅伝に出場する強い想いが、驚異的な回復に繋がり、今回の出走となりました。

序盤こそ勢いよく走り出しましたが、体調が万全ではなかったことが響き、中盤以降はペースダウンに繋がり、2 つ順位を落とし 25 位（OP 参加含む）で 3 区の親崎に襷を繋ぎました。



2区 坪井選手

3区は2区の距離が延びた分だけ短縮されて15.1kmとなりましたが、最長区間には変わりなく、各チームともエース級の選手を起用してくる区間で、当社は今年度は安定感ある走りが持ち味の親崎を起用しました。

親崎はスタートから単独走となり、強い向かい風をもろに受ける難しい状況下でのレースとなりましたが、順位を途中で1つ上げ、苦しい走りながらも最長区間を走り切り、24位（OP参加含む）で4区の小野に襷を渡しました。



3区 親崎選手

小野は2年連続での4区起用となり、昨年度の大会でチーム順位を落とす悔しい走りとなったため、この1年はロードでの単独走を意識した練習に取り組んでいました。

昨年とは比べ物にならない程、普段の練習から質も量もこなしており、成長した走りに期待をしましたが、強く吹き付ける向かい風にリズムを奪われ、本来の軽やかな走りとはかけ離れた苦しい走りとなりました。

順位は24位（OP参加含む）をキープしたまま中継所に向かい、ここで先頭を独走状態で走るGMOインターネットグループと10分の差が開いたため、第4中継所で待つ5区の三浦は繰り上げ棒でのスタートとなりました。

これにより、5区以降は先頭のチームを上回るペースで走らないと、次走者は毎回繰り上げ棒で走らなければならなくなりました。



4区 小野選手

5区は7.8kmの距離と、この駅伝では最短区間ではありますが、新人の三浦を起用しました。

三浦は駅伝直前に体調を崩したこともあって5区での起用となりましたが、ここまでの悪い流れを変えるゲームチェンジャー的な走りに期待し、中盤までは繰り上げ棒組の先頭を引っ張る積極的な走りを見せたものの、中盤以降は1チームに独走を許し、最後まで期待通りの走りとはいかず、繰り上げ棒組では2番目にゴール、順位を1つ上げ23位（OP参加含む）となりました。



5 区 三浦選手

6 区は 10.6 km の距離となり、ここ数年故障や体調不良に苦しみレースの出場から遠ざかっていた西沢を起用、今年度の西沢は故障の原因でもあった体重の減量に取り組み、夏場から練習を継続させると 9 月に入ってからコンディションを向上させ、チーム内選考の末に今回の駅伝メンバーの座を勝ち取りました。

序盤から積極的な走りをみせ、混合チーム（OP 参加）に登録された当社の田中に後塵を拝したものの、順位は 23 位（OP 参加含む）をキープしゴールしました。



6 区 西沢選手

7 区のアンカーは 12.9 km と全区間で 3 番目の長距離区間であり、昨年度も同区間で好走を見せた関口を起用しました。

10 月上旬に行われた高島平ロードレース 10 km でもチーム内ではまずまずの走りをしており、ロードレースでは安定感のある走りができる選手のため、繰り上げ繰組で上位の走りを期待しました。

関口は中盤以降に若干の落ち込みにより集団から離れてしまったものの、安定した走りを見せ、O P 参加を除く正式な順位は 4 時間 2 分 32 秒の 21 位でのゴールとなりました。



7 区 関口選手



【総括】

昨年度の大会では、強化実業団チームに力及ばず 19 位に終わり、雪辱を期して臨んだ駅伝でしたが、結果としてクラブチーム 2 チームにも後塵を拝し、昨年度の順位を更に 2 つ下げる 21 位で大会を終えることとなりました。

向かい風が強く吹き付ける難しい気象コンディションだったため、昨年度とのタイム差を切り離して考えても、当社と同環境（フルタイム勤務）で働く選手達で構成されたクラブチームに負けたことは、自分達の取組みに甘さがあつたのではないかと深く考えさせられる結果でした。

強化実業団チームに挑むという当社の駅伝に対する目標と現実との乖離を今一度見つめ直し、一年かけてチームを再編し、来年の大会では成長した姿をお見せ出来ればと考えております。

今回の駅伝に際し、朝早くから沿道に駆けつけて頂き、温かいご声援を頂いた多くの関係者の皆様、またテレビ放映で当社に多くのご声援頂いた皆様にこの場をお借りして御礼申し上げます。

引き続きまして、皆様の温かいご声援を宜しくお願い致します。

以 上

写真提供：【新電元工業株式会社】 佐藤圭一様 【ELDORESO】 阿久澤様